

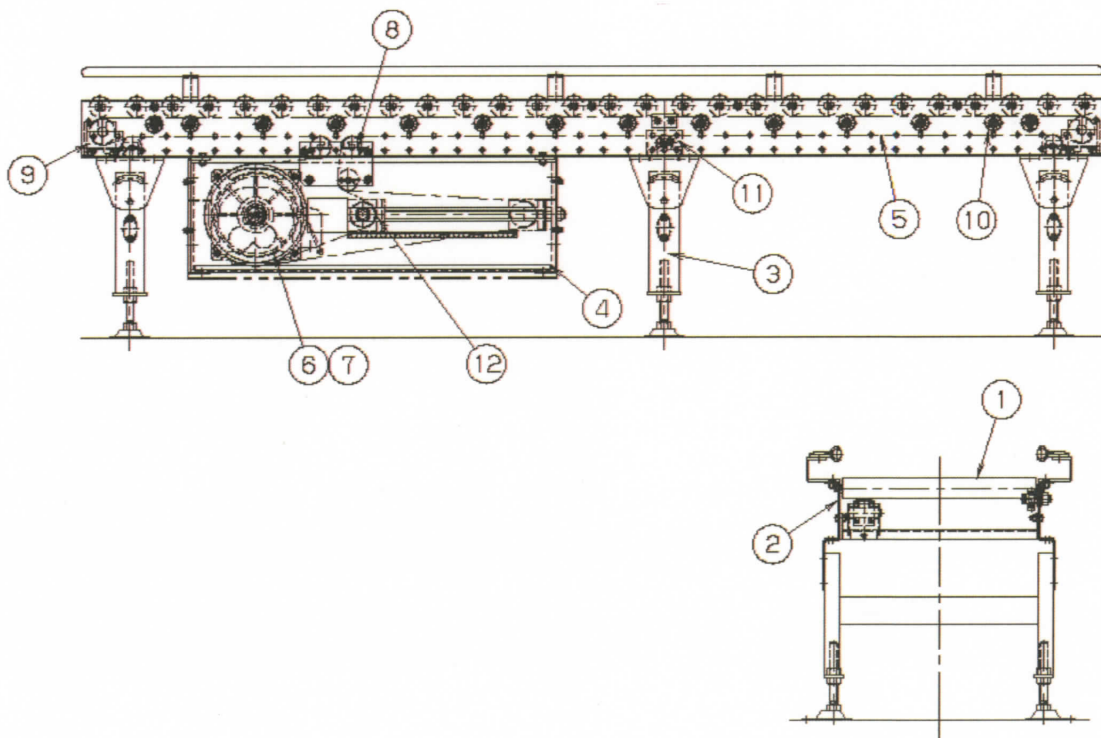
取扱説明書

e-veyor 平ベルト駆動
プレッシャーアキュムコンベヤ
EA (イーエイ)

1. 構造説明

平ベルトとドライブプーリの摩擦力によってベルトを走行させ、そのベルトをキャリヤローラ下面に圧接し、その摩擦力でキャリヤローラを回転させ搬送するコンベヤです。

2. 各部の名称



- | | |
|---------------|--------------|
| ① キャリヤローラユニット | ⑦ モータ |
| ② フレームユニット | ⑧ 巻き返しユニット |
| ③ スタンドユニット | ⑨ エンドユニット |
| ④ ドライブユニット | ⑩ プレッシャープーリ |
| ⑤ 平ベルト | ⑪ リターンプーリ |
| ⑥ ドライブプーリ | ⑫ テークアップユニット |

3. 取扱説明

3-1. フレームユニットの接続

- (1) 畳んであるベルトを解きながらスタンドユニット、フレームユニット、ローラ、プーリ間に通し、各取付ボルトを仮締めします。
- (2) フレームユニットの直線度を目視調整し、連結板、スタンドを本締めします。

[ベルトの蛇行原因になりますので、直線度は必ず確認してください。]



注意

フレームユニットはキャリヤローラとフレームをステーして直角調整してありますから据付には極力衝撃を与えないでください。

3-2. コンベヤレベル

相手乗り移り部とのレベル合せをスタンド下ボルトで行います。

3-3. キャリアローラの取り外し方法

片側づつシャフト端部のキャップを押し、キャップの爪を前に出してから、上に持ち上げます。

3-4. ドライブユニットの調整



注意

試運転調整済みですから、ベルトの蛇行現象が生じた時のみ以外は、ボルト類を緩めないでください。

3-5. テークアップの調整

初期据付時及び、ベルトが弛んだとき、ドライブプーリのところでスリップした時にテークアップ調整します。

▲ 注意

運転中に回転部に巻き込まれるおそれがあります。作業時は十分注意して
テークアップ調整して下さい。

(1) テークアッププーリ固定用ボルトを緩めます。

(M20 六角穴付きボルト用レンチ “呼び 17” 使用)

固定用ボルトを移動可能な程度 (0.5~1 回転程度) 緩める。

(テンションを与える時はテンションプーリが移動可能な最小の緩みで作業を行ってください)

ベルト交換時は完全に緩め、テークアップボルトが緩み易くします。

(2) テークアップボルトのロックナットを緩めます。

(3) テークアップボルトのナットを廻してベルトの緩み具合、スリップ具合に応じてベルトを
引っ張ります。

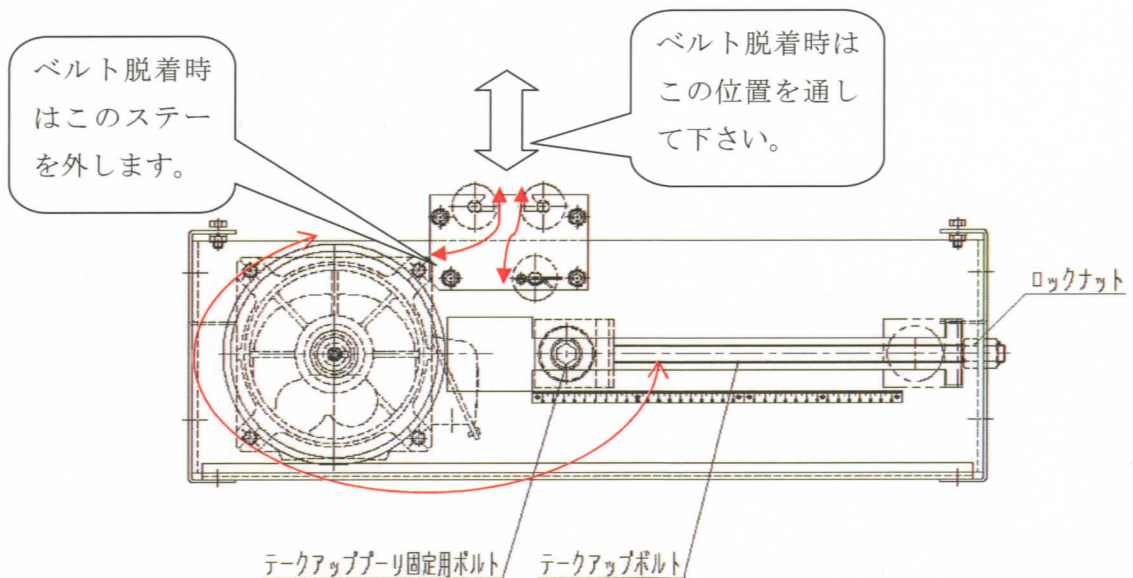
初期据付時やベルト交換時の初期ベルト張力は、約 1% の伸び量を与えて下さい。

機長が 9m のものであれば、取付位置からゲージでほぼ 90mm 程度引張った位置が目安です。

ベルトが弛んだときは、ドライブプーリでベルトがスリップしない程度に張力を与えて下さ
い。

(4) 調整後はナット類を確実に締めて下さい。

(5) 調整後はベルト蛇行がプーリ内に納まって走行していることを確認下さい。

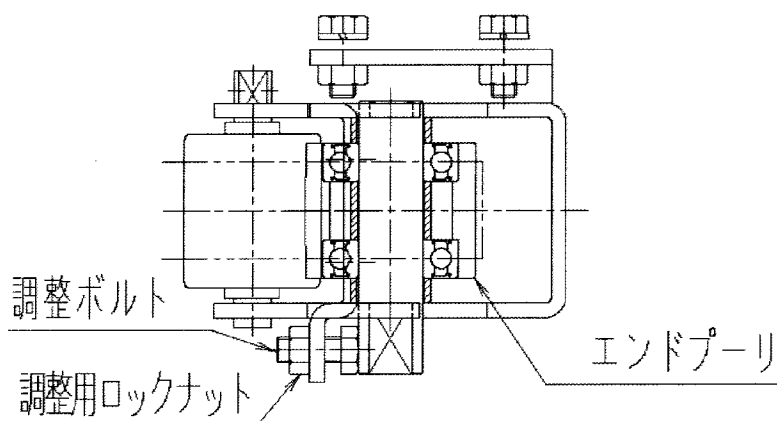


3-6. ベルトの蛇行調整(エンドユニットに蛇行防止機能付きの場合のみ)

- (1) ナットを緩めて調整ボルトで押し引きをして蛇行調整をして下さい。
- (2) 調整後はナット類を確実に締めて下さい。

⚠ 注意

運転中に回転部に巻き込まれるおそれがあります。作業時は十分注意して蛇行調整して下さい。



<調整手順>

- ① 調整用ロックナットを緩めます。
- ② 調整ボルトをベルトの動きを確認しながら前後に移動させ、ベルトがプーリのほぼ中央を走行するように調整してください。
- ③ 調整後はロックナットを締め込んで確実に固定ください。

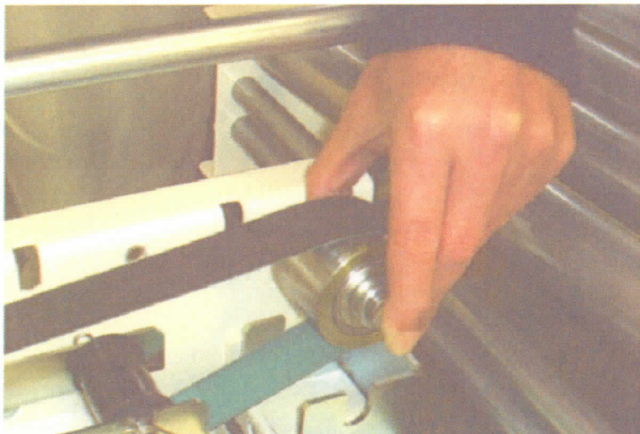
3-7.ベルトの交換

ベルトが消耗した時は、新品のベルトに交換してください。

⚠ 注意

主電源を落とし作業に取り掛かって下さい。
また、他の人が主電源を入れないよう注意喚起願います。

- (1) ベルトはエンドレスの状態です。
- (2) 組み込まれたベルトはテークアップの調整の項 (3-6) 参照し、完全にベルトを緩めます。
- (3) ベルトを緩ませた状態で、両端のエンドプリーを上に持ち上げてプリーよりベルトを外します。



- (4) 駆動部のステアを1本外し、モータ駆動プリーとテークアッププリーよりフレーム外側に抜くように外します。 テークアップの調整 (3-6) 参照
- (5) 駆動プリーとテークアッププリーから抜いたベルトを、巻き付けプリー間を通して抜いてしまいます。 テークアップの調整 (3-6) 参照
- (6) ベルト全体をキャリアローラとプレッシャーユニットからフレーム内側方向に抜くように外します。

新たに組込むベルトは、エンドレスの状態を外す手順と逆の手順にて組込んで下さい。

4. 点検リスト

点検	点検箇所	符号	点検項目	診断方法	備考
日常	キャリヤローラユニット	①	回転不良	目視	
	平ベルト	②	蛇行	目視	
1ヶ月	ローラプーリ類	全体	回転不良	目視	
	平ベルト	⑤	損傷	目視	
			弛み具合	目視	
			蛇行	目視	
3ヶ月	モータ	⑦	異常音の発生	聴診	モータ 取説参照
			モータ部の発熱	触診	
	ドライブプーリ	⑥	セットボルトの弛み	目視、打診	
	各部品取付ボルト	全体	ボルトの緩み	目視、打診	
6ヶ月	フレームユニット スタンドユニット	②	部材変形、損傷	目視	
		③	塗装ハゲ	目視	
			発錆の有無	目視	

5.トラブルシューティング

現象	原因	処置
ローラが回転しない	モータが回転していない	電源を確認、モータ取説参照
	ベルトがプーリから外れている	ベルト復元 [3-5 項] [3-6 項] 参照
	ドライブプーリが回転しない	キーを確認
	ベルトとドライブプーリがスリップしている	[3-4 項] 参照
	積載荷重オーバー	使用通りの搬送物にして下さい
	ベルトが切れている	新品と交換してください
ベルトが蛇行する	フレームにて、プーリ、キャリヤローラの直角が出ていない	フレームの対辺寸法を確認し、ステーボルトを緩めて、キャリヤローラとフレームが直角になる様に調整する
	コンベヤの水平が、出ていない	レベルを調整する
	エンドプーリの取付ボルトが緩んでいる	ベルトを緩めた後、ボルトを締め直す
	ローラ、プーリ類が芯ズレしている	[3-6 項] 参照
	ローラベルト、プーリに、異物が付着している	異物を速やかに取り除く
	長期使用により、ベルトが摩耗	ベルト交換
搬送物がローラ上に停滞する	ローラに油、粉塵等の付着	清掃
	搬送物底面不良	排除
ローラから異音	ローラベアリング破損	ローラ交換
プーリから異音	ベアリング破損	ベアリング交換
ベルト摩擦音	ベルト蛇行による他部品との接触	[3-6 項] 参照